

令和7年度(2025年度)第3回函館市障がい者計画策定推進委員会 会議録要旨

- 日 時 令和8年(2026年)2月20日(金)午後6時から午後7時30分まで
- 場 所 函館市役所8階 第2会議室
- 出席委員(14名)
佐藤委員, 河村委員, 島委員, 相馬委員, 納谷委員, 松田委員, 野村委員,
大淵委員, 大山委員, 野澤委員, 齊藤委員, 廣畑委員, 渡部委員, 赤坂委員
- 事務局職員
障がい保健福祉課 岩島課長, 民谷主査, 村上主査, 岡部主査, 吉田主査,
瀬尾主任主事

○ 会議内容

1 開会(午後6時)

【吉田主査】

ただいまから、令和7年度第3回函館市障がい者計画策定推進委員会を開催いたします。私は、障がい保健福祉課社会参加・事業担当の吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、委員の出欠についてご報告させていただきます。川口委員から、本日欠席する旨の連絡が入っております。

次に、本日の資料の確認をさせていただきます。

「会議次第」, 「座席表」のほか、事前にお送りしております、資料1-1「障がいのある方の現状について」, 資料1-2「第2次函館市障がい者基本計画関連事業の主な取組状況等について」, 資料1-3「第7期函館市障がい福祉計画の成果目標と進捗状況」, 資料2-1「令和7年度福祉に関するアンケート調査結果報告書概要版」, 資料2-2「自由意見まとめ(当事者)」, 資料2-3「自由意見まとめ(事業所用)」, 資料2-4「ヒアリング調査報告(概要)」。

本日の資料については、以上となっておりませんが、不足などがございましたら、お申し出ください。それでは、これからの会議の進行につきまして、佐藤会長を議長として進めてまいります。本日の会議は午後7時半頃までを予定しておりますのでご協力をお願いいたします。

それでは、佐藤会長、よろしくお願いいたします。

2 報告事項

(1) 現計画の進捗状況の報告について

【佐藤会長】

みなさんこんばんは。佐藤でございます。どうぞよろしく申し上げます。

今年、障がい者のパラリンピックが開催されるほか、去年は日本初のデフリンピックが100回目の記念大会として開催されるなど、障がいを持っている人たちのスポーツが盛んになっています。また、函館で全道大会が開催され、さまざまな形で我々も関わっており、多くの人に協力を求めて開催ができたということも喜ばしいものと感じています。

それでは会議次第に従いまして進めてまいりたいと思います。始めに報告事項(1) 現計画の進捗状況の報告について、事務局から説明のお願いをいたします。

【吉田主査】

(資料1-1「現計画の進捗状況の報告について」、資料1-2「第2次函館市基本計画関連事業の主な取組状況等について」、資料1-3「第7期函館市障がい福祉計画の成果目標と進捗状況について」に基づき説明)

【佐藤会長】

ありがとうございます。ただいま、事務局からありました内容について、ご意見、ご質問はございますか。はい、廣畑委員。

【廣畑委員】

確認をさせていただきたいのですが、資料1-3の4、地域生活支援事業の3番目、日常生活用具給付等事業の推移、令和5年度8,648件、令和6年度が8,597件となっているが、令和7年度は10月までの実績ということで少ない件数になっているものでしょうか。

【吉田主査】

お見込みのとおり、10月までの実績となっております。

【佐藤会長】

そのほかございますか。はい、野村委員。

【野村委員】

感想になりますが、最初の資料、障がい者の手帳交付状況一覧を拝見した。自身が白杖を使用する状況で視力2級の障がいとなった。自分の知っているところは歩けるが、島

委員が全盲ということでこれだけの活動をされているということに、改めて心から敬意を表したい。その立場にならないとわからないことがある。資料の表を見ると視力1級と2級で500人を超える人数がいる。視力障害センターを利用している人は見かけるが、そのほか、町中で白杖を持っている人を見かけない。ツールが十分に普及していないのか、見えないということで外出をしないのか、社会参加が難しいものと実感している。福祉用具というものは、障がい福祉サービスの基礎となるものであるが、まだまだ、不足しているのではないかと感じているため、生活実感として一言、ご意見とさせていただきたい。

【佐藤会長】

ただいまのご意見は、非常に大事なところで、体験を踏まえての委員からの発信として受け止めたい。

そのほか、意見等がなければ次に進めさせていただきます。

令和7年度福祉に関するアンケート調査等の結果について資料2を事務局からお願いします。

(2) 令和7年度（2025年度）福祉に関するアンケート調査等の結果について

【吉田主査】

（資料2-1「令和7年度福祉に関するアンケート調査結果報告書概要版」、資料2-2「令和7年度福祉に関するアンケート調査 自由意見 まとめ（当事者）」、資料2-3「令和7年度福祉に関するアンケート調査 自由意見 まとめ（事業所用）」、資料2-4「障がい福祉等に関するアンケート調査（ヒアリング調査）報告（概要）」に基づき説明）

【佐藤会長】

ありがとうございました。ただいま、事務局からありました内容について、ご意見、ご質問はございますか。はい、松田委員。

【松田委員】

難病患者の一人、難病の手帳を持たないということで話をします。難病手帳をもらう手続きがとても難しい。非常に膨大な資料を書かなくてはならない。そして、1年ごとの更新となっているため、次の年には、また同じくらいの作業をしなければならず、難病連で運営委員会の中の役員の方もそのような話をしております。手続きはもっと簡素にならないものか。

【赤坂委員】

自分も難病であるが、コロナの時は3年間更新が不要で楽だった。毎年、難病でも全額支給ではないものもある。また、年間の領収証の写しが全て必要で、住民票なども揃えるのに手間がかかる。私は頑張って手続きしている。

タクシーチケットについても、月に8回使うため、年間ではとても足りない。他都市では費用の何割かを還付してもらえるとというような話も聞いた。こういった意見も反映していただきたい。

歩行器がないと歩けないので、道路がガタガタで、特に市電の線路のところで歩行器が引っかかる。市長の公約に福祉の街函館というものがあつたので、なんとか対応について考えていただきたい。

今回のアンケートがたまたま対象となったようで回答をしたが、コールセンターが設置されていたのはとてもよかった。分からないことがあり利用したが、手際よく対応いただけた。

【大淵委員】

民生委員の改選で、部会長を降りる予定となるため、委員も退任予定となっている。本委員会への参加について、勉強にもなってお礼を申し上げたい。

難病の更新が、1年ごとというのは変だと感じる。医療の発展があつたとしても、難病になって1年で回復ということはしないのではないか。手続きの簡素化など、手助けする方法はないものかお聞きしたい。包括支援センターとの情報交換や研修の中で、就労支援を行う時に難病や障害者手帳等の書類作成の手伝いをしていると聞いている。

全盲の方で、近所に民生委員をしている人がいて、令和7年に津波警報が出たときに、近くの緊急避難場所に一緒に行った。始めは全盲の方本人から何かあつたときに一緒に避難行動をしてほしいと言われていた。日中は何らかの支援を受けることができるが、夜は支援がなく、歩くのが特に大変と聞く。12月8日のときは、偶然、雪が積もっておらず、問題なかったが、雪が積もっていると道路の目印がわからないということだった。市から町会へ障がいのある方への支援について要請が来ているが、一人で過ごしている方など、本人からの申し出がないと支援が難しい場合もある。

【佐藤会長】

難病の件に関して、私の方から話をしたい。更新の際に手続き等が大変であることは、

当事者からの話も出ているが、そのとおりで大変な作業が発生している。1年ごとの更新で、なかなか良くはならないという発言があったが、実は病状が悪化することを想定して毎年の更新をしているという面もある。そのため、年に1回、医師の診断書を取ったり、家族構成を調査したりなどの作業が発生しているものである。病気が良くなっているということはあまりない。難病は原因不明であり、治療法が確立していないということで、大変な思いをしている人が多い。難病支援では特に若年で病気になる方で就労できないという問題がある。現在、北海道庁で難病に特化した就労支援をしようという話がでている。今までは障害者枠に難病の方も入れていたが、難病に特化したものを想定しているとのこと。

就労については、多くの人たちが運動を続けている状況で、そういった事も含めて、障がい者対策と難病対策に少しズレがあったり、考え方が違ってくることがある。

障がいのある方の震災時の避難についてアンケートにもあったが、大変な状況になるという思いはある。等級によって、自分で避難できる人やできない人、同じ等級でもできる人、できない人がいる。そういう人の意向を確認しながら、地域ごと、病気ごとに支援が必要と考えている。かなり以前からこのように議論はしているが、なかなか解決策というのは見つかっていないが、引き続き議論は続けていきたい。

その他、何かございますか。はい、廣畑委員。

【廣畑委員】

確認事項となりますが、今回のアンケート調査の回収率が前回とどれくらい違うか、自由意見の数も合わせて確認したい。

【吉田主査】

当事者の回収率については、身体障がい者が今回45.9%、前回38.4%、知的障がい者が、今回46.4%、前回41.2%、精神障がい者が今回43.0%、前回34.5%、難病が今回50.1%、前回34.5%となっております。

全体で見ますと今回46.4%、前回37.1%となっております。

事業者については前回とほぼ同じくらいで60%を超えるものとなっております。

自由意見につきましては、今回280件、前回312件となっております。

【野村委員】

資料2-4について、発達障がいへのヒアリングについて、自身があさがおの事務局をしていることもあり、こういう形で取り上げていただいたことに改めてお礼を申し上げたい。発達障がい背景にあって、そのことが十分に学校や職場で理解されないために不適切な対応をされて、その結果、離職し、引きこもりに追い込まれる。あるいは不登校に追

い込まれる。こういった例が非常にある。そういう点から、今回取り上げていただいたことは有意義だったと考えている。

質問ですが、調査結果について、そのまま表に出すというのが難しいかと思いますが、何らかの形で公開の予定はありますか。また、今後の計画の中に発達障がいという項目立てを入れるという方向性は考えられるか。

【吉田主査】

ヒアリング調査の結果の公表については、いただいた様々な意見を来年の計画策定の際に課題提起していくことを考えている。なお、全てを一覧にして配る、公表は現在のところ考えていない。

また、発達障がいについて、計画の中に項目として入れるかということについては、今後、検討していきたいと考えている。

【佐藤会長】

その他、何かございませんか。特になければ、この項目については終わりにいたします。

それでは、その他のことで何かご意見等はございますか。

(3) その他

【松田委員】

私はヘルプマークをつけていますが、函館市内でこれをつけていても、誰も声をかけてくれない。東京へ行った際は、5割くらいの方が手助けしますか、と聞いてくれる。ヘルプマークのPRなどもしていただきたい。

【赤坂委員】

同意見です。私も一度も声をかけていただいたことがない。タクシーに乗るときに雨が降っていても、急いで乗車するということができないが、その際、観光客の方が傘を差してくれたことがあるが、市内の方に声をかけてもらったことはない。バスで席を譲ってもらったこともない。

ヘルプマークについて、周りで欲しいと言っている方もいるが、どこでもらえるかわからない方も多い。もっと普及してほしいと考えている。

【吉田主査】

ヘルプマークについては、毎年度、市で購入している。令和6年度では560個配布している。常時配布できるように準備しているが、引き続き色々な広報媒体で普及に努めていきたい。

【納谷委員】

ヘルプマークをつける基準などはあるのか。

【吉田主査】

手帳がないとダメだとかそういった基準はございません。

【納谷委員】

ヘルプマークをつけている人を見かけたことはある。困っている様子だと、手助けしようかと思うが、声をかけるのをためらってしまう。

札幌の地下鉄に乗ると、ヘルプマークをつけている人に席を譲りましょう、というような文言や絵が書いているが、函館の市電では見かけない。

【佐藤会長】

ヘルプマークをたくさんの方がつけるということから始めるといいと思う。そういう人が増えると、お手伝いしてくださいという意思表示であるということが、段々浸透するのかなと思う。

【岩島課長】

周りの人への周知が足りなかったのかとも感じるので、そういうことを考えていくことも必要なかと受け止めさせていただきます。

【佐藤会長】

では、函館市の一つのテーマとして、考えていただきたい。

【廣畑委員】

大学でも、話題に上がるときがあるが、若い人たちも、声かけてもいいのかな、とためらってしまうという話を聞く。お見かけしたら声掛けしてみましようという動きは必要なのかなとも思うが。その一方で、大人数に毎度毎度声がけをされると困るのではないかという面もあり、その程度が難しいのかとを感じる。まずは、困っている様に見えたら声掛けしましょうというのではいかがでしょうか。

【大淵委員】

何もなくてもちょっと声をかけるのが第一歩かなと思う。今は学生や若い人達が福祉と関わって地域に出てきているのが見られるので、そういった中から広めて、周りの人達がそういった状況に乗っかることも一つではないか。ヘルプマークを知らない人も多く、まずは知ってもらおうということで進めてみてはいかがか。

【納谷委員】

マークをつけているということは、助けが必要な場面があるという意思表示だと受け止めて、今後、声がけしていきたいと思う。

白杖を使用している方にはどのように支援をすると良いのだろうか。そういった支援の仕方というのを学んだことがない。

【島委員】

引っ張ったりするのは良くなく、まずは本人に聞いてみてほしい。

視力障害センターで支援の講習をやっているので、お声がけいただければ実践講習のメニューがある。町会などでも可能なので、お声がけください。

【佐藤会長】

他にございませんか。

なければ事務局の方で、全体についてお話いただきたい。

【岩島課長】

皆様こんばんは。障がい保健福祉課長の岩島でございます。本日は、障がい者計画策定推進委員の任期最後の委員会となりますので、私から、お礼のご挨拶を申し上げます。

この委員会は、函館市における障がい者計画等の策定にあたり、市民の皆様の意見等を反映させるという視点から、各関係団体のご推薦をいただいた方をはじめ、公募の市民の方にも加わっていただき、令和5年7月に第1回目の委員会を開催したところでございます。以降、本日までの約3年間に「第7期函館市障がい福祉計画」の策定や、「第2次函館市障がい者基本計画」の進行管理など、数回にわたり、委員会を開催したところでございます。委員の皆様には、お忙しいなか、精力的に意見を交わしていただきましたことに、改めて、厚くお礼を申し上げる次第でございます。

さて、障がい者計画関連につきましては、国において、先月社会保障審議会障害者部会が開催され、障害福祉計画に係る成果目標や活動指標、個別施策など、基本指針の見直しについて議論され、来年度策定予定である「はこだて障がい福祉プラン（仮称）」の準備が進められているところでございます。

皆様から、これまでにいただいたご意見・ご提言につきましては、今後も、計画はもとより、各種施策にも反映させながら、本市の障害者施策を、より一層推進してまいりたいと考えておりますので、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【吉田主査】

皆様、大変お忙しいところ、3年間当委員会にご出席いただきまして、ありがとうございました。皆様のご協力で当委員会が円滑に運営できましたことに感謝申し上げます。

改めてのお願いですが、3月になりましたら皆様の所属する各団体の方に、新しい委員について推薦依頼をさせていただきますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

【野村委員】

委員の構成について、次年度も同じ団体からの推薦ということか。地域包括支援センターからの推薦の委員がいないと思うが、委員構成を再検討するなら地域包括支援センターからも推薦できないか。これからの函館の地域福祉を考える中で、年齢の枠を外して全ての世代の課題に対応する福祉拠点に様変わりし、高齢者のみならず、障害領域・家庭支援の領域の相談も多くなってきていると聞いている。委員構成を再検討するなら地域包括からも推薦できないかということをご提案したい。

【岩島課長】

ご意見ありがとうございます。来年度の委員構成については、検討させていただきます。

【佐藤会長】

他にご意見はありませんか。なければこれを持ちまして、委員会を終了します。